

感謝

平成二十四年十二月一日
平成二十四年十二月三十一日

愛寿会・仁生園・第二仁生園への ご協力ありがとうございます。

いつもご協力をいただき心から感謝申し上げます。今後とも利用者の皆様に、よりご満足いただける施設運営を目指し役職員一体となって誠心誠意努めて参ります。

何卒、これからもご支援のほどを、また、ご叱正を賜りますようお願い申し上げます。また、ご叱正略儀ながら、お礼状に替えさせていただきます。

ボランティア活動

- ・レクボランティアほがらかグループ
代表 吉田 道子 様
- ・レクボランティアゆずっこの会
代表 佐野 恭子 様
- ・北杜市高根町 保坂 多枝子 様
- ・北杜市高根町 佐藤 英道 様
- ・北杜市高根町 佐藤 美代 様
- ・北杜市 うたなかま八ヶ岳 様

愛寿会後援会へのご協力

- ・北杜市長坂町 小林 脩 様
- ・さいたま市緑区 小松 英利 様
- ・北杜市小淵沢町 清水 勝男 様
- ・多摩市貝塚 岩下 正代 様

グループホーム「やすらぎ」

家族会

十二月八日
(土) 年末恒例の「やすらぎ家族会」が行われました。

当日は、雪風であいにくの天候となりましたが遠方より出席して下さるご家族もあり、入居者様、ご家族、職員と四〇名が集いました。



楽謡会の方々による歌や踊り、三味線の演奏を楽しまれ、職員手作りの郷土料理に舌鼓を打ち、すこし早いクリスマスプレゼントの交換を行いました。

楽しいひと時はあっという間に過ぎ、また、「春の家族会」を全員で元気に迎えられるよう約束し、閉会となりました。

愛寿会のサービスに何かご意見・ご要望がございましたら、また、施設見学等のご希望がございましたら左記までご連絡ください。

仁生園 電話 0551(32) 3340
第二仁生園 電話 0551(32) 8270

職員紹介 — 若手職員の抱負や如何に —

仁生園ケアワーカー 功刀 裕太

介護福祉士として働かせていただくことになりました。

仁生園に就職して、四年半が経ちましたが、まだまだ不足している部分が沢山あると思います。

これからも、今まで以上に自覚と責任を持ち、自分自身の向上を目指すと共に、利用者の皆様に安心して生活していただけるよう業務に励み、支援に努めて参ります。



仁生園ケアワーカー 小林 佳純

十月より正規職員として働かせていただくことになりました。今まで以上に仕事に対して責任を持ち、自分の立場を考えられるよう頑張りたいと思います。

また、利用者の皆様が安心できる環境をつくれるように努めていき、介護職員として自分ができることを探し、初心を忘れずに日々の業務に励みたいと思います。



仁生園ケアワーカー 小田切純子

介護に携わったのは、仁生園が初めての事でした。

今回介護福祉士に合格することができ、十月より正職員とし勤めることになりました。



学んだことを踏まえて、今まで以上に利用者の方々とそのご家族が何を求め、何を望んでいるのかを考えながら勤めていきたいと思っております。

愛寿会 たより

1月号
第163号
平成25年
1月1日発行



新年あけましておめでとうございます。 仁生園から望む富士山。

法人創立四十周年の新春にあたって

会長 板山 賢治

愛寿会が創立されたのは、昭和四十七年七月です。今年、満四十周年にあたります。

四十年の歩みをふりかえりますと正に「山あり谷あり」でありましたが、今日では、特別養護老人ホーム「仁生園」（定員二六一名）及び障害者支援ホーム「第二仁生園」（定員三十三名）を運営し、スタッフ二一〇名、年間総事業費約五億円という県内屈指の社会福祉法人に成長して参りました。

ひとえに「天の時、地の利、人の和」に恵まれ、北杜市はじめ各方面の絶大なご支援と歴代役職員の努力・精進によるものと深く感謝を申し上げます。

「温故知新」と申します。新しい年の初めに法人設立の経緯を知ることにも意義深いと存じますので往時を知るもの一人としてその一端を記しておきたいと存じます。

昭和四十五年の春、当時は、厚生省老人福祉課の課長補佐でありました私を訪ねて、富士吉田出身の渡辺貞次さん（広瀬久忠衆議院議員秘書）が参られました。「新宿区の山梨県人会が老人福祉施設計画をもっているのので智恵と協力を」ということでした。

当初、中巨摩の昭和村を予定していたよう

ですが紆余曲折の末、県人会の中心であった平井一雄さん（法人第二代理事長）の故里であり、地元平井一満（初代理事長）、坂本清満、瀬戸英賢といった有力者が協力してくれる小泉村小荒間に決ったという知らせを受けたのは、四十六年春頃でした。土地が決まれば、日本自転車振興会に助成申請が出来るといので、四十七年七月、社会福祉法人愛寿会（平井一満理事長）の設立となったのです。そして四十八年五月、県内第一号の特別養護老人ホーム仁生園（定員九十六名）が誕生したのでした。

私は、平成八年四月、平井第二代理事長の要請を受け理事長に就任し、平成二十年四月、小澤澄夫第四代理事長に引き継ぎ会長の職をお引き受けいたしました次第。

ここ八ヶ岳南麓の地に「福祉の拠点づくり」と念願している私にとって愛寿会が、着実に発展しつつありますことは、大きな誇りでもあります。

社会福祉法人愛寿会の更なる発展のため北杜市当局をはじめ市民の皆さんの一層のご理解とご支援を心からお願ひする次第です。（日本社会事業大学名誉博士）

12月20日、第二仁生園開設5周年記念式典が開催されました。



創立五周年にあたって

社会福祉法人愛寿会 理事長 小宮山 光彦

「障害者支援施設第二仁生園」がその事業を開始したのは、平成十九年七月一日のことでした。その頃私は、社会福祉法人愛寿会理事として、側面からではありませんでしたが、当時の板山理事長、小澤副理事長とともに、第二仁生園の施設の建設や施設利用者の募集のために奔走していたことが思い出され、ここに創立五周年を迎え感慨を新たにしております。

この度は、本年七月の理事会・評議員会において愛寿会理事長の大役を仰せつかることになりました。

開設の頃を振り返ってみますと、第二仁生園の本体建設は、総工費が凡そ四億三千万円で、うち約2億円を国庫等の補助金で整備をしてきました。

また、一昨年度には、武田和久氏（社会福祉法人緑の風、現愛寿会理事・評議員）からの心温まる貴重なご寄付を基に、グリーンハウス（作業所、総工費二千三百万円）の併設をすることができました。

その前年度には、スプリングクラー設備を新設しています。この五カ年で、福祉車両の整備や器具・備品などの整備を含め、施設全般に渡る整備事業が概ね完成したものと考えております。

施設経営の視点では、開業初年度こそは施設が満床に至らず、各方面に施設利用を働きかけました。二年度目以降は、借入金の償還も山梨県からの全額利息補助の御蔭というものの、滞ることなく、当期活動収支差額を黒字とするに至り、以降安定した経営内容が継続しております。

折しも愛寿会では、平成二十三年七月に厚生労働省から、新たに社会福祉法人会計基準が発出されたことに伴い、法人拠点区分、仁生園拠点区分とともに第二仁生園拠点区分を設置し、第二仁生園のこれまで以上に自立した、施設経営を期待しているところでございます。

昨今、巷では「障害者自立支援法」の見直しが取沙汰されているようです。

新しい障害者福祉保健制度のもとで、障害を抱えた皆様が、地域に根差し、地域の中で自立した社会生活を営むことを支援していくための、「障害者支援施設第二仁生園」の役割は、益々重要になってきます。

これからは、第二仁生園の職員一人一人が、この五カ年に培ってきた施設経営のノウ・ハウを遺憾なく発揮され、施設利用者の皆様とともに、今後とも一層奮励努力と気概を忘れることなく、精進することをお願ひ申し上げます。御尽力賜りました皆々様に心より御礼、感謝申し上げます。



第二仁生園家族会の久保田文雄様と利用者篠原良雄様から祝辞を頂きました。

十二月二十日（木）愛寿会 理事会・評議員会

新たな社会福祉法人会計基準に基づく愛寿会経理規程等が制定されました

このほか左記の業務の進捗状況などが報告され、ご承認をいただきました

本年度第四回目の理事会・評議員会が開催され、標記のことなどについてご審議をいただき、何れも、執行部提案のとおりご承認をいただきました。以下、主な内容についてお知らせいたします。

◆経理規程の一部改正について

社会福祉法人会計基準（平成二十三年基準）といいますが、平成二十四年度から適用されています。

愛寿会では、今年度から新しい会計基準に移行することとして、基本的な項目については、経理規程の一部改正で、当初予算等に対応して参りました。

この度は、平成二十三年度基準の細部について規定の一層の見直しを行い承認していただきました。



◆職員の処遇改善について

平成二十四年度の介護職員処遇改善策として、従来の処遇改善交付金とは異なり、介護報酬に処遇改善加算金を上乗せする方法で加算されています。これを職員に支給するための特例規程が審議され承認されました。

◆報告事項等

①事業運営について

平成二十四年度当初に重要項目として掲げた各種施策について、小尾、白倉両園長並びに浅川副園長からその進捗状況について報告がありました。

②節電等の対策について

電力料金の値上げに伴うこれまでの節電対策と、今後の施策の実施方法について、清水法人事務局長から報告されました。

③給与体系の見直しについて

「愛寿会だより」十月号でお知らせした職員給与見直しについて、その後の検討状況が石原企画部長から報告されました。新しい給与体系の内容や実施時期などについても併せて報告されました。

④創立四十周年記念事業について

来年十月に実施を予定している「仁生園創立四十周年記念事業」の準備の進捗状況及び実施の内容等について協議が行われました。

クリスマス 仁生園の様子

一年に一度訪れるクリスマス：ここ仁生園にもトナカイの引くソリに乗り、若いサンタクロースが来てくれました。

十二月二十四日クリスマススイブ。チキンライス、照り焼きチキン等おいしいご馳走をいただきながら、クリスマス会食を行いました。

職員がハンドベルで、「きよしこの夜」を演奏。心に響き渡る音色に、入所者の皆様から大きな拍手をいただきました。また、サンタクロースからのプレゼントに、「いくつになってもプレゼントはうれしいわ」と、マフラーやルームシューズなど隣の方と見せ合って、笑顔がこぼれていました。

新しい年を健康で迎え、よい年になるよう、ハローモニカに合わせ「お正月」を大合唱しました。



薄紙で花を作りツリーの出来上がり、切り絵で雪の結晶。各フロアーそれぞれの特徴があり、趣向を凝らしています。